

治らないはずの「橋本病」が治りました



箱崎節子さん

集中治療室でも栄養素を摂り続けて
治らないはずの「橋本病」が治ったのです！

昨年7月、箱崎さんは突然発症した**甲状腺クリーゼ**という甲状腺が破壊される病の為に、集中治療室での治療となりました。又、甲状腺の炎症を抑える為に、ステロイドホルモンの大量投与を余儀なくされ、筋肉が破壊される満身創痍の状態となり、とりあえず命は助かりましたが、甲状腺機能が低下する「**橋本病**」と診断されました。その為**チラージン**（甲状腺ホルモン薬）を処方されました・・・が、箱崎さんの的確な対処により、チラージンに頼らなくてすむようになり、治らないはずの橋本病が治りました！担当医も、自分の診断が間違いかと疑った程です。

昨年6月頃から、のどの痛み・脱力感・動悸・微熱が続いており、サプリの量を増やしても体調が戻りません。風邪の症状にも似ているのですが、いやな微熱が長く続き不安を覚えながらも、日々の忙しさにかまけて、受診を避けていました。そして、ついに7月4日に喉の腫れと、40度の高熱によって身動きが出来なくなり、急患で受診しました。医師には最近の症状を伝え、「30歳頃から疲れやすく、血液検査では“**慢性炎症**”を表す**血沈値**が30代から高めで、姉と叔母が甲状腺の病気です」と伝えました。直ぐに、血液検査や甲状腺超音波検査などを受けました。喉のあたりは炎症がひどく**CRP**（炎症を表す値）：10.9（0.0~0.3）、**心拍数**は120程あり、まるで全力で走っているように、心臓の鼓動が身体中に響きまします。診断名は“**甲状腺クリーゼ**”でした。

「**危険な状態ですので、集中治療室に入って頂きます。入院は、2~3週間**」と全く予期せぬ医師の言葉に驚きました。治療は甲状腺の炎症に対してヨードと**ステロイド(60mg/1日)**の服用、心臓への負担を和らげる薬などです。ベッドに横たわりながら、必要な治療を効果的に、また出来るだけ体力を保持するために、どのサプリメントを摂ったらよいかと考えていました。

早速サプリを治療室に持ち込み、コンドロイチン・SOD・白寿・γリノレン酸・カルシウム/マグネシウム・各種アミノ酸（Lシスチン/グルタミン・タウリン・BCAAアミノ酸）を中心に、通常

の4~5倍の量をローズCで溶かし、水溶液として**一日中頻繁**に飲みました。2日ほどで身体はすっかり楽になり「**とても回復が良いですね**」とコメントされ、なんとたったの4日間で集中治療室を出て退院となったのです。

7月は1週間ごとに検査をしステロイドを5mgに減らした処、下がり始めた**CRP**の数値が3.61から5.96上がってしまい、医師に「またステロイドを10mgに増やしましょう」と云われました。しかし、医師にはステロイドによる**タンパク異化亢進**（体のタンパク質が壊れる事）が気になるので、もう1週間様子を見させて頂きたいとお願いしました。（医師との対話が重要ですね）翌週には炎症の値**CRP**が2.64まで下がり、8月初旬にはステロイド治療を終了できました。

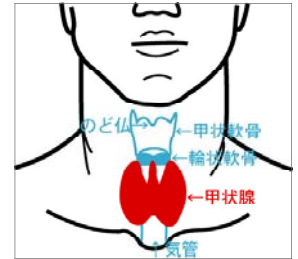
ステロイド治療の服用中、副作用と思われる怖さを思い知らされました。治療開始3日目頃から、脱力感・脚が急激に痩せ、力が入らなくなり、階段を上るにも頼りないのです。食事中に頬を噛んでしまう、排尿が困難など、**全身の筋肉がズルズルと音をたてて壊れていくようにあっという間に体力低下**が起こり、ゾッとしました（タンパク異化亢進状態）。

この間の検査値は、尿素窒素13.1から一気に23.6（7.8 ~ 18.9）に上昇（タンパク質が壊れている状態）。総タンパク値の低下と共に、アルブミン3.5（4.1 ~ 5.2）まで低下。リンパ球7.4（17.1 ~ 55.5%）まで低下し、免疫が下がった状態でした。さて、この危機をどう乗り越えるか・・・、

病気を知り、あらゆる可能性に懸けよう

病の回復には“**医療の力**”だけでなく“**体の力**”も必要です。そのためには、病気、治療、予後などを知り、生活習慣、食生活、栄養対策が必要です。又、治療により体が受けるダメージに対処することも、早期回復や予後に影響します。医師に治療方針や予後を詳しく聞き、薬、検査値を知ることも必要です。箱崎さんは普段から“**体の仕組みと栄養**”の関係を学んでいたため、進行が早い病状でも、即座にタイミングよく対策ができた事が幸いでした。

甲状腺ホルモンの分泌が亢進するのは**甲状腺機能亢進症**（バセドウ病）、ホルモンが減少するのは**甲状腺機能低下症**（橋本病）と云われ、男性より女性に多く発症します。両者とも「**自己免疫疾患**」と云う自分の免疫細胞が自分の細胞を攻撃して発症する病気です。関節リウマチもその一つで、“**炎症**”を伴います。免疫細胞は細菌やウイルスなどを攻撃して排除しますが、ストレスや体質（遺伝）により、その仕組みに異常が起ると、自分の体の細胞を攻撃して自己免疫疾患が発症します。まず、炎症を抑えるには**ステロイドホルモン**の大量投与が必要です。ステロイドは炎症を抑えると同時に**タンパク質**を壊します。筋肉にはタンパク質が多いので、箱崎さんの例では3日後に障害が起りました。ステロイドは筋肉だけでなく、甲状腺などの臓器のタンパク質も壊すので、甲状腺も破壊されホルモンの分泌は減り、「**甲状腺機能低下症**（橋本病）」が進行します。炎症を抑える為に必要なステロイドと一緒に、**アミノ酸**（タンパク質）を大量投与します。



サプリの恵みを楽しみました

タンパク値を上げるために、**アミノ酸**の摂取量を更に増やし身体に注ぎ込みました。リンパ球低下（免疫低下）には免疫を上げる**亜鉛**や**ラクトフェリン**を。炎症を抑える為に**γリノレン酸**を10粒×3回摂取。1ヶ月ほどで炎症は落ち着きましたが、8月13日の検査の結果、甲状腺機能低下症（**橋本病**）と診断されました。甲状腺が低下する橋本病にはホルモンを補うために**チラージン**（甲状腺ホルモン剤）が処方されました。橋本病ではチラージンを生涯服用しなければなりません。秋には殆どの数値が元に戻り、体調も以前にも増して軽やかになりチラージンを減らしてみたくなりました。2ヶ月ごとの検査で自分で体調と数値を注意深く慎重に観察しながら、チラージンを最初は1/2に減らし、更に1/5にしてもホルモンの数値は正常。思い切って1/10からゼロにしてみました。

そして、今年2月4月の検査でも、数値が正常な事を確認したのです。ヤッター・・・！！と思いき、医師に4～5ヶ月間薬を服用していない事を白状しました。担当医は非常に驚き、「**この病気は治るものではないのですよ！**」と、診断当初の検査データをパソコンで再確認して、「やはり診断には間違いはないですよ」と怪訝そうな顔をされていました。

橋本病は生涯チラージンが必要です。お薬を止められるとは思っていませんでした。生涯必要な薬を減らすなど、怖くて出来ない事ですが、あえて

1歩踏み出せたのは25年間ライフケアで分子栄養学に基づく健康管理を学ばせて頂いた賜です。

私の闘病の力となった、体験談

基本的な健康管理と、検査数値による栄養レベル(体力)の確認。薬によるメリット・デメリットを、日頃から皆様の貴重な体験も聞いたりして、学ばせて頂き、納得出来る内容として深く私の心の中に大切な知識として刻まれています。エビデンスに基づいた栄養摂取と、皆様の体験を聞かせて頂くたびに、身体が震えるような感動を受けてきました。その積み重ねの全てが、何よりも今回の私の闘病の力となりました。

健康情報や知識が豊富でも、それだけでは身体の回復は難しいと思います。栄養と細胞の関わりを理論的に理解できることは、自分が最悪の状態でも絶望ではなく、希望を見いだす事が出来ます。身体は食べたものが材料となって全身の臓器・細胞が機能するという生命の基本に沿ってこそ、健やかな身体を得ることが出来ます。しかし、食事だけでは不具合が生じた身体に必要な栄養量を十分に補うことはできません。早期に回復することが出来たのは、決して偶然の出来事ではなく、長年の経験からサプリメントの「**最適な量と組み合わせ**」を使いこなすことが出来ていたことでした。

自己免疫疾患の体質を受け継いだ私は、この先の加齢と共に、ストレス管理など今まで以上の健康管理を励行し、定期的検査を受け1年でも健康寿命を延ばしたいと思います。